巻　頭　言

「植調誌」と論文

公益財団法人日本植物調節剤研究協会　理事
近畿中国四国支部長
伊達　寛敬

「植調誌」は，平成27年4月の第49巻から，A 4判カラー化と内容の充実を目指してリニューアルされた。本誌49巻1号の巻頭言の中で，小川奎理事長は「本誌は植物調節剤開発利用に関連するトピック的な研究論文，これまでの知見を体系的に整理した解説，今後の技術開発の展望，薬剤の特性や適切な使用方法などを掲載し，この分野をリードする科学技術情報誌としての役割を果たしてきた」と述べている。私も本誌については，植調協会の広報誌としての側面だけでなく，学術的な研究論文や植物調節剤開発利用に関連する解説記事も多く掲載されていることから，今後の植物調節剤の研究開発につながる情報誌として，その重要性を認識しているつもりである。また，最近，研究論文が話題となる出来事が世間に注目されており，その要因には論文中の研究成果とともに，論文の作成過程にも関心が高まったためと考えている。

ここでは，「植調誌」のリニューアルを機に，研究論文や解説記事の作成や読み方について，これまでに私が考えてきたことを述べてみたい。

私も研究者の一人として，それなりの研究論文や解説記事を作成する機会があった。論文といっても，外国の学術論文誌や各種の学会誌はもちろん，各試験研究機関の研究報告や関連広報誌など，論文を投稿する機会は様々である。しかし，どのような形式の論文でもよいので，研究結果（成果）を論文の形式にして，できるだけ多くの方々の目にふれ，評価されることが重要であると考えてきた。その論文の構成要素として，緒言（はじめに），材料及び方法，結果，考察，引用文献（参考文献），その他が一般的と思われるが，特に，ここでは私が重要と考えてきた「緒言」と「引用文献」について取り上げることにしたい。

先ず，「緒言」については，一般的に，実施した研究の背景，動機や意義，成果の位置付け及び重要性などを記載することが多い。また，収集した引用文献を理解する過程で，緒言中には著者が何を述べようとしているのかや，これまでのその分野における当該論文の位置付け等を知ることができることから，論文の読者としても私が最も大切している部分である。

次に，「引用文献」については，論文作成前及び作成中，関連する引用文献を収集，整理し，それらを理解することは，作成しようとする論文中の結果と収集した引用文献中の研究結果を比較検討し，作成論文の成果を適正に評価するために，重要な部分と考えている。一方，論文の読者としては，研究をはじめる時の貴重な情報源となっていた。現在のように論文の検索が容易な時代とは異なり，私の若いころは，関連する学位論文や成果報告集などの総説を探し，そこから参考となる文献を孫引きして当該研究分野のこれまでの経緯や歴史を知ることができた。特に解説記事は，幅広く新たな研究に関する知見を得るのに，大いに役立った。

なお，論文の作成や読み方の中で，「考察」など前述以外の構成要素も重要であることは，ここで申し上げる必要はないと思う。

最後に，植物調節剤開発研究の分野をリードする科学技術情報誌の「植調誌」が，国，国研，大学，企業など，本誌作成に関わる多くの方々に支えられていることに，一読者として感謝するとともに，今後とも，本誌の発行が植物調節剤研究開発とその成果の普及につながることを期待したい。